

(社)伊賀薬剤師会 コラム

no. 78

薬と日差しの、 ちよつと意外な関係

新緑がまぶしい季節、外に出たくなる陽気ですね。

こんな日はふらっと散歩に出たくなりますが、実はこの時期、紫



外線は真夏並みなんです。ここで意外なポイント。薬の中には、紫外線と相性の悪いものがあるって知ってましたか？

見過ぎしがちですが、もし薬を使っている、いつもと違う肌の反応があったら、それは体からのサインかもしれません。

抗生物質・湿布薬・精神科薬・糖尿病治療薬の一部などは、紫外線と反応して肌が赤くなったり、水ぶくれができたリ...いわゆる「光線過敏症」という肌トラブルを起こすことがあります。

「日焼けかな？」と

そんなときは、帽子や長袖、日傘でやさしく肌を守ってあげてください。そして気になったら、自己判断で服薬を中止せずに医師・薬剤師に相談を。

5月の太陽は、ちよつとおせっかい。でも少しだけ気をつけ

れば、もつと心地よく、やさしく付き合ってくれますよ。〈PR〉

本会では「お薬の出前講座」を行っております。
詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

伊賀薬剤師会

検索

<http://www.igayaku.or.jp>

☎0595-26-7270

伊賀市四十九町831-4

